

# 平成 30 年度 事業計画書

日本河川・流域再生ネットワーク

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

会員及び海外連携機関との協働を基本に、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じて、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に貢献し、国内外のネットワークの拡大を図ります。

平成 30 年度は、河川再生に関わる情報共有基盤の更なる強化、河川再生の普及・啓発に向けた行事開催や調査研究、また国内外関係団体との協働活動に取り組み、川づくりの中間支援機能及びオープンイノベーション・プラットフォームの役割を担ってまいります。

## 【1】 河川再生に関わる情報共有基盤整備

河川再生のポータルサイトとして、全国の川づくりに役立つ有益な情報を、会員及び海外連携機関の協力を得ながら集約し、それらをホームページやソーシャルメディア（随時更新）、ニュースメール（毎週配信）、ニュースレター（毎月発行）等を通じて広く社会一般に発信し情報循環を図ります。また、「水辺の小さな自然再生ホームページ」内に、水辺でできる「小さな自然再生」のデータベースを追加し、全国の水辺でできる小さな自然再生の事例の情報循環にも取り組みます。

また、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の事務局運営を担い、ARRN 活動成果やアジアにおける河川再生関連情報の普及に努めます。



JRRN web  
随時更新



JRRN facebook  
随時更新



JRRN newsletter  
毎月発行



JRRN news mail  
毎週発行



ARRN web  
不定期更新

※JRRN ホームページからすべてにアクセスが可能：<http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN が運営・管理する主な情報媒体

## 【2】河川再生の普及・啓発に向けた行事等の実施

河川再生の普及・啓発、情報交換や交流、技術向上を目的とした行事を企画開催します。

### (1) 「桜のある水辺風景 2018」写真公募と写真集制作・普及

水辺が創出する美しい景観の未来への継承を目的として、平成 30 年に撮影された「桜のある水辺写真」を一般より募集し、ソーシャルメディアで紹介するとともに、写真集としてとりまとめ普及します。



作品集と応募チラシ

### (2) 講演会や研修会等の開催 《河川基金助成事業》

河川再生の普及・啓発、国内外の河川再生に関わる最新情報や知見の共有、また技術向上を目的とした講演会や研修会等を開催します。

平成 30 年度は、多様な主体が協働し日曜大工的に自然環境の保全・再生に取り組む「小さな自然再生」の人材育成と全国活性化を主目的に、全国の活動主体によるサミット（交流会）や河川管理者と連携した現地研修会を開催します。また、その成果を講演録や報告書などでホームページに公表し普及します。

## 【3】河川再生に関わる調査研究 《河川基金助成事業》

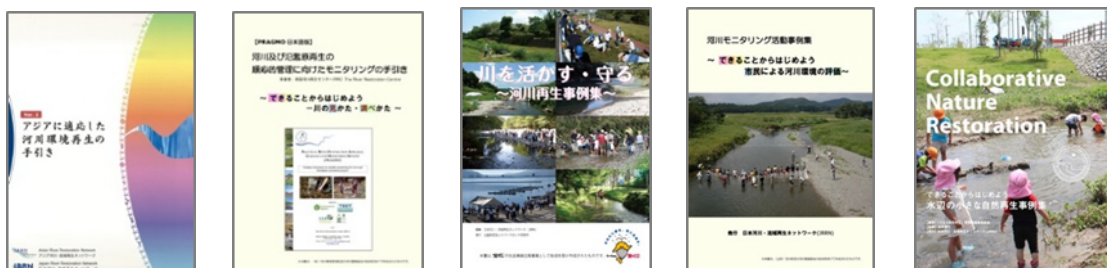
水辺でできる小さな自然再生の普及促進と人材育成に関わる調査研究として、行政職員・民間技術者・研究者・学生・市民等がフラットな関係で気軽に参加できるネットワークのあり方や、小さな自然再生の担い手の人材育成と活動の活性化を図る仕組みについて研究します。

## 【4】河川再生に関する冊子等の発行

河川再生の普及・啓発を目的に実施した行事等の成果、及び調査研究の成果を冊子として取りまとめ、全国への普及に努めます。



講演会・技術交流会・シンポジウム等の講演録や報告書（過去の主な成果）



調査研究成果の発行情物（過去の主な成果）

## 【5】河川再生の推進に向けた国内外団体の支援や協働

JRRN 会員や ARRN 会員を含む川づくりに関わる国内外の諸団体が取り組む公益的な活動に対し、企画や行事の運営・開催、広報等に協力しながら、河川再生の更なる推進に寄与する新たな価値を協働活動を通じて生み出していきます。

### 今年度予定している主な国内協働活動

| 団体名                  | 支援・協働内容          |
|----------------------|------------------|
| 全国の市民団体等（JRRN 団体会員）  | 行事や諸活動の企画、運営、広報等 |
| 水の巡回展ネットワーク(jawanet) | 巡回展の企画運営協力       |
| 応用生態工学会              | 委員会との協働          |

### 今年度予定している主な海外協働活動

| 団体名                    | 支援・協働内容   |
|------------------------|---|
| アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN) | 「第 13 回 ARRN 運営会議」企画運営<br>「第 15 回 水辺・流域再生国際フォーラム」運営<br>※ 12th International Symposium on Ecohydraulics (ISE 2018)（平成 30 年 8 月・東京開催）の分科会として開催。 |
| アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN) | 中国水利水電科学研究所(IWHR)国際フォーラム（平成 30 年 10 月・北京開催）への講師派遣   |
| 海外政府視察団                | 国内視察受入先との技術交流支援   |

**平成 30 年度 収入・支出予算書**  
(平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日)

(収入)

| 項目      | 本年度<br>予算額 | 前年度<br>予算額 | 比較増減    | 備考             |
|---------|------------|------------|---------|----------------|
| ①前年度繰越金 | 381        | 836        | △ 455   |                |
| ②助成金    | 1,000,000  | 1,000,000  | 0       | 河川基金助成事業       |
| ③寄付金    | 300,000    | 0          | 300,000 | 日本水大賞(国際貢献賞)副賞 |
| ④預金利息   | 30         | 30         | 0       |                |
| 計       | 1,300,411  | 1,000,866  | 299,545 |                |

(支出)

| 項目      | 本年度<br>予算額 | 前年度<br>予算額 | 比較増減      | 備考                              |
|---------|------------|------------|-----------|---------------------------------|
| ①旅費・交通費 | 350,000    | 690,000    | △ 340,000 | サミット出張費                         |
| ②通信・運搬費 | 10,000     | 0          | 10,000    | サミット資料運搬費                       |
| ③資料・印刷費 | 100,000    | 60,000     | 40,000    | サミット資料印刷費                       |
| ④賃貸料    | 120,000    | 30,000     | 90,000    | サミット会場使用料                       |
| ⑤委託費    | 340,000    | 190,000    | 150,000   | サミット運営・データベース制作アルバイト人件費、サミット速記料 |
| ⑥諸謝金    | 50,000     | 0          | 50,000    | サミット講師謝金                        |
| ⑦消耗品費   | 30,000     | 30,000     | 0         | 封筒・文具代、サミットCPD登録料等              |
| ⑧来年度繰越金 | 300,411    | 866        | 299,545   |                                 |
| 計       | 1,300,411  | 1,000,866  | 299,545   |                                 |

※上記は助成金のみを計上。

その他の事業に要する諸費用は、日本河川・流域再生ネットワークの事務局を共同運営する「公益財団法人リバーフロント研究所」及び「株式会社建設技術研究所国土文化研究所」の共同研究「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」より支出する。